

三鷹の森学園



平成27年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告

検証項目	(1) 人間力・社会力の育成 ○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他
目標	・学校とCS委員会が協力して、地域社会において個性を発揮し、自己実現を図る意欲を育てるキャリア・アントレプレナーシップ教育の一層の充実や見直しを図る。
取組	・9年間の三鷹の森学園での学習・諸活動を通して地域に生きるよさや手ごたえを感じ、将来地域に貢献する資質を養う。また、三鷹の森学園での9年間を通して、集団や社会において個性を発揮し他のために働き、個性を発揮するよさを身に付け、希望に向けて意欲的に生きる態度を育てる。 ・各学校のキャリア・アントレプレナーシップ教育の具体的な成果検証を行い、さらなる充実や改善を図る。 ・児童・生徒のボランティア活動や、学習ボランティア・社会人講師などを活用することで、各校の児童・生徒と地域との結びつきを強める。
成果 ・身近なできごとに疑問をもつ態度を育て、Ⅱ期以降は体験や様々な情報から、自分で課題を設定し追究する学習、多様な情報を収集したり考えをまとめ表現したりする活動を重視した教育を地域とともに行う。 ・「人とかかわり」「国際社会とかかわり」に価値を見出す多様な課題解決学習を通し、学び方や考え方を身につけ、生き方について考える態度を育成する。 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育のさらなる創意工夫を行い、その際、「問題の明確化」→「計画」→「実行」→「外部評価」→「再実行」→「まとめ」の学習過程を計画実行する。	課題と改善方策 ・学園全体として児童・生徒の言語能力の育成の成果が表れ、コミュニケーション能力も高まっている。今後は、学園として育てたい学力や資質・能力を、「リテラシー」と「コンピテンシー」に分類するなどして、新たな社会力・人間力の基盤となる力を見直していく必要がある。 ・オリンピック・パラリンピック教育の意義を踏まえて、2020年から2030年の社会の在り方も見据えながら、小中一貫教育の目指すところを議論していきたい。
検証項目	(2) 学校運営について ○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他
目標	・学園運営を進めるために学園管理職会を適宜行い、課題解決策を話し合う。また、コーディネーターの役割を重視し、学園の教育活動の調整と活性化を図る。
取組	・学園管理職会で全体の進行管理を行いながら、学園会議や研修会等、年間計画を踏まえ、3校が共通・共同の歩調と方針で運営する。 ・主幹・コーディネーターを軸に4部会が目標に向けて主体的に運営されるよう全職員が三鷹の森学園づくりに参画意識をもたせる。
成果 ・学園管理職会・・・月に1回あるCS役員会の日に時間を設定して、必要事項の共通理解を図った。 ・学園会議・研修会・・・生徒の放課後の活動を縮小しないように会議を工夫して行う。研修会の講師の講演・研究授業は、テーマに従い、前年度の方法を踏襲して進めた。 ・主幹・コーディネーターの打ち合わせや会議は、その時の問題点だけでなく、9年間を通して児童生徒を育成する観点で課題を設け、その解決策を検討した。 ・全職員の参画意識・・・教職員の異動のあった4月には、小中一貫教育の意義や理解を促す特設研修会を設定した。	課題と改善方策 ・「チーム学園」として、教員が多様な専門性を持つ職員・関係諸機関と連携・分担してチームとして学園の職務に当たることが必要である。その中心を担う教員一人一人の意識向上やスキルアップを図る必要がある。 ・新しい時代の教育を担う中核として、学園の教員一人一人が自信をもって力を発揮できるよう、学園研究「特別の教科 道徳」を実施する。この研究を通じて、児童・生徒が、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とともによりよく生きるための道徳性を養うことを目標とする学園の教育活動を目指したい。

検証項目	（３） 小・中一貫教育校としての教育活動 ○小・中学校間相互乗り入れ授業 ○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 ○その他	
目標	学園研究を中核に「わかる・できる」授業を究明するとともに、新学習指導要領の方向性を踏まえた資質・能力の育成とその研究を進める。	
取組	・小・中一貫カリキュラムの実践が共通の指導観、指導法の上で実現されるよう学園研究の充実に努める。 ・家庭学習時間の意義や行動目標をCS委員会と共同で作成し、家庭への啓発活動を推進する。 ・特に中学校1年生の生活指導に関する諸課題について適宜情報交換し、一貫教育校としての継続指導を実践する。	
成果 ・児童生徒の学力の向上やⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期の授業のねらいを明確にし、9年間を見通した小・中一貫カリキュラムに基づいた指導法の改善と、小学校第6学年から中学校第1学年への接続期の指導の工夫・改善を行った。特に2018年の学習指導要領の改訂を視野に入れ、英語の乗り入れを重点化した。 ・学習形態を工夫し、協働的な問題解決学習、自分の考えを論理的に表現する学習活動などを各教科指導に取り入れる。また、ICTや板書を複合的に活用したり、ノート指導を工夫したりして児童・生徒にとって分かる授業の工夫に努めた。また、学校で学んだことを定着させるために「三鷹学びのスタンダード(家庭版)」の啓発に努めた。 ・地域との連携や地域人材の活用を図り、9年間の指導計画に基づいたキャリア・アントレプレナーシップ教育を行い、他者との人間関係を構築しながら自己理解を深め、望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に生きる力を育成に努めた。		課題と改善方策 ・学園・学校のカリキュラム・マネジメントについて、各教科等の教育内容を相互の関係で捉えて、学園・学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で教育内容を配列していくこと。 ・学園の教育内容の質の向上に向けて、各種調査に基づき、改善を図るPDCAサイクルを確立すること ・教育内容と教育活動に必要な人的・物的財源を掘り起し、一層有効にしながら効果的に組み合わせること。
検証項目	（４） 児童・生徒の学力・健全育成 ○ 児童・生徒の学習意欲 ○ 各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○ 小学校と中学校の評価の一貫性 ○ 不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力	・小学校6年から中学校第1学年への円滑な接続を図るための基礎学力の定着を図る。 ・思考力、表現力の向上のために、言語活動の充実を図る。
	健全	・いじめ、不登校、問題行動等に適切に対応する教育相談機能の向上。 ・自己肯定感と規範意識の向上を図る。
取組	学力	・小学校では、第4学年までの国語、算数の基礎基本の確実な定着（完全習得率90％）を目標値とする。 ・中学校では、第1学年では、小学校5学年までの漢字習得、数学は文字式と方程式の計算を90％を目標とする。中学校2学年では、英語の時制の違いを正確に表現することを90％を目標とする。 ・全教科の指導で言語活動を有効に取り入れ、児童・生徒が主体的に考え、表現する能力の向上を図る。
	健全	・仲間を大切に思い、集団生活の向上に貢献する能力を養う。いじめの防止に向けて、いじめ防止対策の具現化を図る。 ・校内組織の教育相談的対応力を向上するために、養護教諭やスクールカウンセラー、諸機関との連携、3校間の情報共有を図る。 ・地域への帰属意識を高めるために学校・学園で様々な取り組みを工夫するとともに、自他の生命や生活を思いやる心や規範意識を育てる。
成果		課題と改善方策
学力 ・すべての子供が分かる・できる・かかわり合う授業を工夫し、国語の指導を基盤として、全教科・領域で言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の向上を図った。また、「反復学習」「家庭学習」を習慣化させるとともに、放課後や休業中の「補充学習」を拡充させ、各学年の基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。 ・第三中学校による言語活動拠点校の研究は、学園としての言語能力育成の成果を確認する機会となった。		学力 ・小学校中・高学年においては外国語の授業時数が35時間増えることから、時数確保とともに短時間学習の効果を検討する必要がある。また、国語教育においては、国語教育と関連付けながら、高学年においては4技能を扱う系統的指導に転換して準備が必要な時期である。 ・また、中学校においては3年間を通じて毎学年週4コマ合計420単位時間の授業となっており、小学校段階での指導の充実を前提に成果を最大の発揮できるよう指導の工夫・改善が求められる。 ・このことから次年度も中学校からの乗り入れは「第6学年学国語(英語)」を中心に計画を立てて実践していきたい。
健全育成 ・いじめ防止・・・三鷹市いじめ防止対策推進条例に基づき学園のいじめ基本方針や年間計画を見直し、いじめ防止の徹底を図った。 ・不登校・・・家庭との連絡・連携に苦慮した。関係諸機関との連携を一層強化するとともに、小学校からの情報提供をより早い段階から進めた。 ・問題行動・・・あいさつ、姿勢、言葉使いを誰もが丁寧に、きちんとできるよう指導目標として取り組んだ。 ・「親子で交わすスマホ使用の使用契約書」の啓発資料に家庭も巻き込んで注意喚起の指導を実施する。 ・規範意識・・・きまりをつくる段階から、児童生徒が参加するなど、法教育の観点での指導を行う。また、学校での集団活動を重視する。		健全育成 ・いじめ防止については、学園・学校のいじめ基本方針、年間計画を不断に見直し、いじめ防止の徹底に取り組む。不登校については、家庭との連絡・連携が進展しないケースが増えていることから、関係諸機関との連携を一層強化する。 ・問題行動については、小学校段階からの学園全体で情報を共有していく。また、規範意識は、きまりをつくる段階から、児童・生徒が参加するなど、法教育の観点での指導を継続して行う。また、学校での集団活動を重視する。

検証項目					
(5) コミュニティ・スクールの運営 ☐ コミュニティ・スクール委員会の組織・運営 ☐ 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ☐ 学校と保護者、地域住民との連携・交流 ☐ その他					
目標	・三鷹学びのスタンダードが掲げる児童・生徒像を実現するための、CSを中心に家庭・地域への行動目標を啓発する。 ・三鷹の森学園の中期的な目標(2015～2020年を想定したプラン)を論議する。				
取組	・中期的な学園のビジョンをもち、次代の教育ニーズにこたえる学園を目指す。 ・組織の活性化を図るためにアクティブ・ミーティングを展開するとともに、新たな委員との交流を深めながら組織の活性化を図る。 ・三鷹学びのスタンダードアクション・プランをCSの熟議、学園研究を通して作成し、家庭・地域に向けた行動目標を発信する。				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果</th><th>課題と改善方策</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・「三鷹学びのスタンダード」を踏まえた、三鷹の森学園の「小中一貫・三位一体アクティブラーニング」をCS委員会で作成し、より具体的な児童・生徒の育成目標に結びつけた。また、家庭へのより積極的な発信・協力を努めた。 ・CS委員の入れ替えがある年であり、会長、副会長とも協力をしながら、前例にとらわれず三校を支えるCS委員会を組織し、オープンで、イーブンで、アクティブな論議を重ねることができた。 </td><td> ・「三鷹学びのスタンダード」学校版と家庭版を一体化し、学園オリジナルの「小中一貫・三位一体で取り組むアクティブ・ラーニング」を広報活動を進め、CS委員会は、「社会に開かれた教育課程」の視点から、今後の学園運営に意見を述べる関係性を醸成していきたい。 </td></tr> </tbody> </table>		成果	課題と改善方策	・「三鷹学びのスタンダード」を踏まえた、三鷹の森学園の「小中一貫・三位一体アクティブラーニング」をCS委員会で作成し、より具体的な児童・生徒の育成目標に結びつけた。また、家庭へのより積極的な発信・協力を努めた。 ・CS委員の入れ替えがある年であり、会長、副会長とも協力をしながら、前例にとらわれず三校を支えるCS委員会を組織し、オープンで、イーブンで、アクティブな論議を重ねることができた。	・「三鷹学びのスタンダード」学校版と家庭版を一体化し、学園オリジナルの「小中一貫・三位一体で取り組むアクティブ・ラーニング」を広報活動を進め、CS委員会は、「社会に開かれた教育課程」の視点から、今後の学園運営に意見を述べる関係性を醸成していきたい。
成果	課題と改善方策				
・「三鷹学びのスタンダード」を踏まえた、三鷹の森学園の「小中一貫・三位一体アクティブラーニング」をCS委員会で作成し、より具体的な児童・生徒の育成目標に結びつけた。また、家庭へのより積極的な発信・協力を努めた。 ・CS委員の入れ替えがある年であり、会長、副会長とも協力をしながら、前例にとらわれず三校を支えるCS委員会を組織し、オープンで、イーブンで、アクティブな論議を重ねることができた。	・「三鷹学びのスタンダード」学校版と家庭版を一体化し、学園オリジナルの「小中一貫・三位一体で取り組むアクティブ・ラーニング」を広報活動を進め、CS委員会は、「社会に開かれた教育課程」の視点から、今後の学園運営に意見を述べる関係性を醸成していきたい。				

平成27年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (5) の検証 結果を踏まえて	1 「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	学園としての「学力」の相対評価も市内でトップクラスであり、学力に関する一定の成果は出ている。しかし、三鷹学びのスタンダードに示された種々の事項の実現はまだまだ不十分であり、これらの一層の取り組みが必要であると感じている。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	2030年以降に必要とされる「リテラシー」や「コンピテンシー」、また、教科を横断する「アクティブ・ラーニング」など、学校の理解や取り組みだけではその実現は難しく、家庭、地域の一層の理解・協働が求められる。「子供たちの未来」について共に考え、共に協働できるコミュニティ・スクールを目指したい。
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	今次、本学園で作成した「三鷹学びのスタンダード」学校版と家庭版を一体化した、学園オリジナルの「小中一貫・三位一体で取り組むアクティブ・ラーニング」を広報活動を進め、CS委員会は、「社会に開かれた教育課程」の視点から、今後の学園運営に意見を述べる関係性を醸成していきたい。